

労働生産性の高い中山間地域農業の実現 (R3~R8)

～将来の選択肢を増やすための新たな挑戦～

対象地域：鷹栖町北斗地区 13戸

課題設定の背景

地域の現状

- ・ 高齢化、担い手不足による農家戸数の減少
- ・ 水稲主体だが、現状以上の水稲面積拡大が困難
- ・ 転作作物はほとんど牧草で管理作業は委託
- ・ 転作作物の秋まき小麦は収量が不安定で収益性が低い

具体的推進事項

- (1) 省力化技術の導入と拡大
- (2) 転作作物の導入と栽培改善
新規作物導入検討
秋まき小麦の栽培改善

活動の経過

(1)省力化技術の導入と拡大

水稲省力化技術を提案



密播中苗と除草剤の水口施用を提案

実証展示ほを設置



調査、分析、評価を行い資料作成

現地研修会を開催



重点地区以外でも研修会を開催し、
取り組み内容の情報提供

(2)転作作物の導入と栽培改善

転作ほ場の透排水性を確認



土が硬く、排水不良だった
→カットドレーン mini で対策！

カットドレーン mini の実演会開催



実演会で施工方法を共有
試験場と協力し、効果を確認

転作作物導入シミュレーションを実施



営農 Navi を活用し、転作作物を導入した場合の農業所得、労働時間などを個別にシミュレーション(4戸)

秋まき小麦栽培改善支援



生育調査を実施し、栽培管理のポイントについて情報提供

営農懇談会で取組経過を説明



活動の経過を重点地区内で報告

新たな挑戦！

活動の成果

(1)省力化技術の導入と拡大

○省力化技術の有効性が実証された

〈対象農家の現状〉

水稲面積	10a当たり 使用箱枚数	6.3×70mハウス 当たり定置枚数	ハウス棟数 (実棟数)	全ハウス労働 時間
28ha	32枚	1750枚	5.12(6棟)	350.2hr

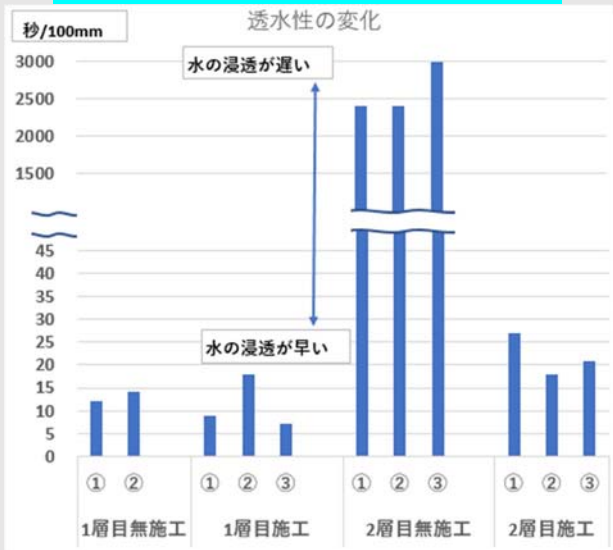
区分	導入面積 (ha)	必要箱枚数 (枚)	ハウス棟数 (実棟数)	全ハウス労働 時間(hr)	同左比 (%)
密播中苗	2.5	400	4.89(5棟)	334.4	96
慣行	25.5	8160			
密播中苗	16.5	3300	3.99(4棟)	272.9	78
慣行	11.5	3680			
密播中苗	28	5600	3.20(4棟)	218.9	63
慣行	0	0			

密播中苗を導入することで育苗労働時間が削減。また、資材費も36%減少した。取り組み農家から「来年は導入面積を拡大する。」との声

重点地区以外でも来年実施したいとの相談が密播中苗で3件、除草剤の水口施用で2件あった。

(2)転作作物の導入と栽培改善①

○カットドレーン mini の改善効果を確認



施工区で透水性が改善されていた。春先にはほ場の融雪水が排水される様子を再確認する。

(2)転作作物の導入と栽培改善②

○シミュレーションを行った農家のうち、2戸が新たに大豆を作付け予定



対象農家の声

今後の経営を考え、来年は牧草地で大豆を試験栽培してみる

家の周りで何かやってみたいけど、もう少し考える

労働力不足解消のためには畑作物を入れるしかない

(2)転作作物の導入と栽培改善③

○提案した技術8項目のうち6項目が実施された

技術項目	評価	技術項目	評価	技術項目	評価
透排水対策	○	生育量に応じた施肥	○	雪腐病防除	○
低pH改善	△	(起生期)	(○)	病害虫防除	○
適期播種	○	(幼穂形成期)	(○)	除草剤散布	○
融雪材散布	△	(止葉期)	-	※○：実施、△：不足	

収量は前年を上回ったものの、融雪の遅れや土壌の低pHなどの要因により、地区JAの平均を下回った。

今後の対応

(1)省力化技術の導入と拡大

新たに取り組む農家に対して導入支援を実施。既に導入した農家については、導入面積拡大を目指す。

(2)転作作物の導入と栽培改善

- ・カットドレーン mini の施工効果を確認する。さらに別の透排水性対策も検討する。
- ・秋まき小麦、大豆などの畑作物の安定生産に向けた支援を実施する。
- ・畑作物の定着には機械導入が不可欠なため、関係機関も含め地域全体で導入方法を検討する。